

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275300701		
法人名	有限会社ケアサポート・豊田		
事業所名	グループホーム すきっぷ藤枝 (A棟)		
所在地	藤枝市稲川1丁目1番12号		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2275300701-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藤枝市の中心部にあり半径500メートルの範囲に市役所、消防署、図書館法務局、神社、商店街等があります。ホームの裏手には瀬戸川が流れ四季折々自然の中で散歩を楽しむ人達の憩いのコースになっておりますので、入所の方も散歩に出かけたり、気持ちよく外気浴もできます。施設の中庭にはスタッフと入所の方が育てている野菜があり、旬の野菜が食卓に彩りを添えてくれます。午前中はスタッフによるレクリエーションの他に多彩なボランティアの皆様の訪問があり、楽しい時間を過ごしています。毎月、写真付きのお便りを発行して、ホームでの様子を家人にお知らせしています。また、年に数回すきっぷ藤枝新聞の発行に加え、平成29年よりホームページをリニューアルして開設し、ブログで近況をお知らせしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護支援専門員2名、計画作成担当者が4名いるほか1名が研修中と、意欲と運営の余裕が満ち安心な事業所です。折鶴を沢山作る利用者のために、夏には向日葵色の鶴を花に見立て枝に付け飾ったり、町内会長から総会式次第を依頼される等、その人のできることを、したいことへの着目に秀でています。事業所の姿勢に呼応するようにクリスマスにケーキを作ってくれたり、義理の母の入居を経て「実母も」と、家族も事業所の取組みを評価しています。「離職ゼロが介護の安定」と考えの下同じ顔ぶれでしたが、諸所私事が重なり、長く勤務した職員が退職することになったものの、なんとか配置が叶う点からも11年の重みが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域になくしてはならない施設を理念に掲げ管理者、職員とも日々実践に努力している。会社の理念は玄関に掲げており、従業員だけでなく、来所されたご家族様、お客様にも常に目に見えるよう工夫している。	理念8ヶ条を総称して「安心、安全」と端的に表現し、皆で気をつけています。例えば、誤薬については1日3回分のBOXから都度シート化したトレイに置換える等してトリプルチェックをおこない万全を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時には近所の方や出会った皆様と挨拶を交わしたり、会話も楽しんでいる。また地域の人達との防災訓練、隣の施設との交流会、町内会の方には運営推進会議等でホームの日常を報告している。	運営推進会議メンバーの町内会長、民生委員、ボランティア代表の仲が良く、全体としても和気藹々とした地域で、事業所は助けられています。近所の母子が時々遊びに立ち寄ってくれる、という個別の関係もできています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区民生委員の方の見学や地域の方の介護の相談に応じている。藤枝市より派遣されている介護さわやか相談員の訪問を受け入れ、グループホームについての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、市の関係者、民生委員、町内会長、ボランティア代表等と意見の交換をし、議事録を作成しスタッフ全員が情報を共有している。2ヶ月間の施設の様子をDVDで紹介したり、事故報告書についての説明や困っている事、問題点などを報告して意見をいただいています。	開設から11年、本年7月には第48回を迎え、多様なメンバーで隔月開催できています。外出写真のスライドショーや、月例の職員勉強会の資料も配布して専門的な質問の場に展開する回もあります。	併設の障がい者施設の管理者にも出席してもらえるよう段どり、その先に合同の夜間想定防災訓練があることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護さわやか相談員を受け入れている。運営推進会議には市の担当者の出席がありませんので、事業所の実情についてお知らせして、ご意見をいただいています。	若く意欲の高い職員がいることもあり、市主宰の研修会に積極的に参加してもらっているほか、しだ(志太)介護サービス事業者協議会、藤枝市介護支援研究会、藤枝市立総合病院の集まりにもできる限り出席しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行いませんが、緊急、やむを得ない場合は安全を重視し、ご家族に許可いただいてからすることがあります。日中は玄関の施錠はせず、利用者はA棟、B棟の行き来も自由に出来るよう開放的な空間を心がけています。	ゼロ宣言を掲示し現在必要となる症状の人もなく、訪問時はユニットを自由に往来する人や、近親者と外食に出かける場面も見かけました。テンションアップの利用者に背中を何度も叩かれても、温和に接する職員の姿が「しない実践」を裏付けているようでした。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないよう留意し、日々の生活を観察し、身体的又は精神的な状況をチェックしていく。スタッフも暴言を利用者に言わないよう「言ってはいけない言葉」を紙に書き壁に貼っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を作りスタッフ全員が共有できるようにする。現在後見人制度を利用しているご利用者が1名おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、又は解約時だけでなく、不安や疑問点について具体的な説明をしている。いつでも相談しやすい環境づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が何でも言える環境作り心がけている。が、直接話しづらい方のためには苦情・御意見箱を玄関に設置している。ご意見があれば全員で話し合いを行い改善策を見つける。	義理の母の入居を経て「実母も」との家族もいるほど、面会のある大半の家族は職員の頑張り、事業所の取組みを評価くださっています。また毎月すきっぷ藤枝新聞も写真入りで愉快的な内容に仕上げられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや毎朝の交代時の申し送り、伝達ノートなどから職員の意見や提案をくみ取り、反映させている。	情報共有が確実にできるように努めています。夜勤、看護師、日勤、管理者で朝申し送りした内容を交替時に都度口頭連絡とともに、ノートに記載して漏れないように工夫して、以前心配された報連相に十分留意しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年度からキャリアパスを導入している。管理者はスタッフの性格や能力等の把握に努めている。休日の希望日は希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修、認知症サポーター養成講座、グループホーム協会などの研修に参加している。毎月内部研修もテーマを決めて行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しだ介護サービス事業者協議会、県グループホーム協会に加盟している。特にしだ介護ではネットワーク作りや研修があり参加している。研修等学べる機会には交代で出席している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここは安心、安全、いごちの良い所であることを利用者が理解することが肝心である。何でも話せる環境作り、利用者、家族のニーズを理解し、コミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安、不満を聞き、一緒に問題を解決していきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が第一に何に困っているのかを見つけ出し、(ニーズ)最適なサービスが受けられるよう支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とはスタッフは日常生活を共にし、信頼関係を築くように努めている。食器拭き、洗濯物たたみ、等家事と一緒にしていただき、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者の様子を家族に連絡し本人の思いも家族に伝えることで利用者、家族、スタッフの絆を強めともに本人を支えていく事に努めている。近況を写真を添え、毎月個々人のお便り(すきっぷだより)、すきっぷ新聞を出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になっても慣れ親しんだ地域で暮らせるよう地域密着型施設としてグループホームが存在する。家族、親戚、友人、近所の方々がいつでも訪問しやすい施設作りに努力する。	趣味のちぎり絵や塗り絵、書道の師範だった人の書、折鶴の造形品と、利用者の自己有用感が高まるものが共用空間の至るところにあり、利用者もその話を振ると満足気な表情を浮かべて会話も膨らみます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はお互い生まれも性別も環境も異なるがこの場所と一緒に暮らすためにお互いの性格を把握し、係わり合い、支えあえるよう支援していく。また孤立する方がでないよう見守りに努める。席の位置を工夫したり、お互いの会話にも気を配る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設に行かれた方でも面会、お見舞いにいったりホームに尋ねてきたりとの関係ができています。退所された方の御家族もその後の様子を知らせてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく本人の希望に添えるよう努力している。レクリエーションでは、できるだけ外に出て散歩をするなど、気分転換ができるよう配慮をしている。	食事、排泄、整容、リハビリ、医療、心理面と分野を分け、6枚ものシートに落とし込んで「その人」を浮き彫りにさせケアに反映させていることを、書面とともに利用者、職員の様子から確認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族からの情報を元に生活歴の把握、趣味、好み、病歴、サービス等を把握する。農家の方に対しては、馴染みのある草取りや園芸、野菜の収穫を通じ、役割を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でその人らしい生き方、心身状態、能力の発見に努めている。自分でやれる事はやれるよう支援し、日々その人のペースで生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活や行動、言動に注意し、「何を求めているのか」の把握に努める。また家族は「何をのぞんでいるのか」と言う問いにいつも真剣に考え毎朝のミーティング等で話し合い、ケアプランに活かしている。	介護支援専門員2名、計画作成担当者が4名いるほか、現在1名が研修に通っていて、本件に係る意欲が十二分に覗えます。職員がケアチェック表の記載も含み日々注視していることは毎月のお便りの濃さに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録をつけ、職員は情報を共有している。毎朝ミーティング時に個別の介護プランについて意見交換し、介護計画の見直しに役立っている。特変があれば申し送りノートに記入し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、その他日常生活に必要な品の購入、かかりつけ医の往診、説明等必要なニーズに合わせて柔軟にサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向に沿いながら、親戚、友人、知人、近所の方等やさわやか相談員、民生委員、ボランティアの受け入れをし、豊かな暮らしが可能となるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には、かかりつけ医の2週間に一度の往診、緊急時の往診、アドバイス、24時間いつでも医者、看護師と連絡の取れる体制が出来ている。	月2回訪問診療をおこなう協力医に13名が変更しています。協力医は24時間オンコールでフットワークも軽く、看護師連携も確実です。従来のかかりつけ医を継続する人は家族が通院介助しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年より看護師を配置している。提携先のドクター、看護師とは、利用者の情報を共有しており、2週間に1度の往診や看護を受けている。緊急時は24時間、いつでも看護師と連絡が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際してはかかりつけ医の紹介状用意、正確な情報提供を行う。病院のワーカー(相談員)と密に連絡を取り合い家族を交えて話し合いを行い、安心して入院治療ができるようバックアップしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族様のご意向、健康状態などを考慮し、グループホームで本人らしい生活ができるかと判断された場合は、状況に応じ看取りを行っていく。数年で看取りに近い状況を何名か経験していることから、スタッフも慌てずに落ち着いて支援することができている。	協力医の方針の下、初めての看取りを本年無事終えています。医師のバックアップから職員にも気構えが生まれ、居室の空気清浄や香りにまで配慮し、パジャマは彩度の高いもの、また季節の花を置いたり全員で気働きに努め、感慨深い経験となりました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習修了者、medic, First, Aid受講者もあるが、全員に実践力を身につけるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に施設内で防災訓練を行っており、地域の防災訓練にも参加している。また、施設内には常備してある食料・水・介護用品などを備蓄してあるため、緊急時は地域の高齢者を受け入れる体制が出来ている。	法定訓練実施を遵守しています。第一次避難場所である藤枝西高校よりも標高があるため、慌てて移動せずに落ち着いて状況を判断していこうとの考えを地域、家族にも伝え、避難方法を共有しています。	有事には受入る準備があることですので、今後は民生委員、町内会長とともに独居高齢者の把握や日常の交流も進めていけると、なお良いと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格や生活歴を知り、人生の先輩であるということを常に念頭におき、尊敬の気持ちを忘れずに接することを心がけている。	「本人がする前に職員がしない」といったルールはあるものの、理念の「安全、安心」を軸として「その人らしく穏やかに暮らす」ことが丁寧なアセスメントでできているためか、職員の言動に安定感があることが伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮なく自分の考えを言える雰囲気作りに努める。本人に馴染みのある家事や仕事を提供し、自分らしい生活が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日常生活の中でその人の希望に添った暮らしができていないか絶えず注意、観察しながら支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームには訪問理美容の方が来てくれます。衣類、装飾品、化粧品等も家族と連絡を取りながら支援している。毎朝どの洋服を着たいか本人に選んでいただいている。外出の目的に応じてお化粧品のお手伝いや服装の相談にもなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の好きな料理、苦手な料理を把握し(苦手な料理の時は代替品の品を提供している)、楽しい食事になる様心がけている。食事の支度、片付けは出来る範囲で利用者も手伝っていただく。旬の食材を出来る限り取り入れた手作り料理を提供している。全員が食卓に着いてから「いただきます」をしている。	利用者がその日のメニューのお品書きをしたため、職員が畑で収穫した夏野菜を上手に献立に取入れています。刻みやブレンダーが増え、誤嚥が心配なため研修を重点的におこない、飲み込みに配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日等の体調の記録で一人一人の体調変化を把握している。介護記録、バイタルチェック表にて排尿、排便、食事量、水分補給等小まめに観察し健康維持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフの声かけ、見守りの中で口腔ケアを実施している。自力で困難な方には介助にて行い、嚥下能力が低下している方にはスポンジブラシを使用し、残渣物を除去している。必要に応じて歯科受診をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行う。布パンツ使用を続行できるよう努めている。	車いす用のトイレと一般のトイレ2つ総計3箇所あり、職員用も別に用意され、「待つ」ということは緩和されています。業務としては排泄状況を確認したくはありますが、羞恥心を鑑み外で待つこともあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックは毎日している。便秘による不穏や不安にならないよう食事献立を考え、水分補給や運動を促し、排便の生活リズムを作るようにして、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に気遣いながら入浴を楽しめるよう支援している。時間、順番に関してはできるだけ希望に添えるようにしている。外出し疲れが見えるような時は清拭に変え対応している。	日棟は平均年齢91歳となり全体に高齢化が進むものの、シャワーチェアは2割程度で1日おきの入浴が叶い、職員の尽力にも本人の壮健さにも頭が下がります。家族から届く良い香りの入浴剤を使う日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状態により昼寝を勧めたり、ソファでも休息できるよう声かけをしている。夜間安眠できるような環境(騒音防止、照明、室温)に配慮している。不眠の訴えには傾聴し、精神的安定を図るよう努めている(例 温かい飲み物を提供)定期的に寝具を干したり洗濯をし気持ち良い眠りを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、処方された薬の目的、副作用、用法、用量は細かく調べファイルを作り、各スタッフが共有している。服薬については、毎食後、服薬シートを作成して、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の状態を把握しその方の生活歴や趣味、嗜好を考慮しながら支援している。調理、掃除、洗濯物たたみ、園芸、買い物等毎日の生活の中での楽しみや興味あることの発見により、より良いケアが出来るよう努めている。誕生日、季節の行事を大事にしそれに伴う食事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気温などにもよるが、できるだけ戸外の散歩を楽しめるようにしている。瀬戸川沿いの散歩では四季折々の自然を五感で楽しむことが出来る。スタッフの時間帯により、買い物やドライブにお誘いしている。	午前のレクタイムはリハビリ体操に替えて、外気浴やシルバーカーでのミニ散歩を設け、季節の花や風を愉しんでいます。年間行事に配したイベント的なドライブ外出は年2回あり、食材は毎日近くのスーパーにでかけ、利用者が同行することもあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の状態により判断しているが、原則お金はホームで管理している。(自分で所持していて、盗まれたらという他の入居者とトラブルになることを避けるため)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望あれば電話ができるよう随時対応している。また、手紙を書く習慣のある方は、対話を通じて積極的にペンがすすむよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさは極力排除して普通の家庭のような雰囲気作りに心がけている。スタッフや利用者手作りの作品(タペストリー等)を飾ったり季節の花々や節句の飾り物等々、四季折々居心地の良い空間作りを心がけている。	大きなソファが2つ置かれたテレビ鑑賞スペースと、食堂様式のテーブル・椅子スペースのほか、キッチンもカウンターで食事が摂れそうなほど広く、ゆったりと過ごしやすい環境です。特に5Sが素晴らしく、換気扇や棚の裏などの目に入りにくい箇所も清潔です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにTV、ソファ、イス、玄関、ウッドデッキの中庭などにもベンチが置いてあり、好きな場所で思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自分の使い慣れた物、好みの物を持ってきていただいている。入所中に必要な物は買い物に同行して買い揃えたり、本人の好みを尊重している。A,B棟自由に入出りできるようにしている。	モダンな木調の表札がある居室には洗面所、エアコンが備わり、家宅からチェストや家族写真、目覚まし時計などを持ち込んでいます。また壁には帯状のフックが四方に設置され、洋服整理もスムーズです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーになっており、手摺り、段差なし、車椅子使用トイレ、スプリンクラー設備と安全に配慮した作りとなっている。又個々のレベル状態を把握しながら自立した生活が送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275300701		
法人名	有限会社ケアサポート・豊田		
事業所名	グループホーム すきっぷ藤枝 (B棟)		
所在地	藤枝市稲川1丁目1番12号		
自己評価作成日	平成29年6月30日	評価結果市町村受理日	平成29年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiayosoCd=2275300701-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藤枝市の中心部にあり半径500メートルの範囲に市役所、消防署、図書館法務局、神社、商店街等があります。ホームの裏手には瀬戸川が流れ四季折々自然の中で散歩を楽しむ人達の憩いのコースになっておりますので、入所の方も散歩に出かけたり、気持ちよく外気浴もできます。施設の中庭にはスタッフと入所の方が育てている野菜があり、旬の野菜が食卓に彩りを添えてくれます。午前中はスタッフによるレクリエーションの他に多彩なボランティアの皆様の訪問があり、楽しい時間を過ごしています。毎月、写真付きのお便りを発行して、ホームでの様子を家人にお知らせしています。また、年に数回すきっぷ藤枝新聞の発行に加え、平成29年よりホームページをリニューアルして開設し、ブログで近況をお知らせしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護支援専門員2名、計画作成担当者が4名いるほか1名が研修中と、意欲と運営の余裕が満ち安心な事業所です。折鶴を沢山作る利用者のために、夏には向日葵色の鶴を花に見立て枝に付け飾ったり、町内会長から総会式次第を依頼される等、その人のできることを、したいことへの着目に秀でています。事業所の姿勢に呼応するようにクリスマスにケーキを作ってくれたり、義理の母の入居を経て「実母も」と、家族も事業所の取組みを評価しています。「離職ゼロが介護の安定」と考えの下同じ顔ぶれでしたが、諸所私事が重なり、長く勤務した職員が退職することになったものの、なんとか配置が叶う点からも11年の重みが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	この地域になくてはならない施設を理念に掲げ管理者、職員ともに日々実践に努力している。季節ごとの催し物に積極的に参加し、地域の方々との交流に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時には近所の方や出会った皆様と挨拶を交わしたり、会話も楽しんでいる。又地域の人達と防災訓練をしたり、町内会の方には運営推進会議等でホームの日常を報告している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区民生委員の方の見学や地域の方の介護の相談に応じている。藤枝市より派遣されている介護さわやか相談員の訪問を受けいれ、グループホームについての理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、市の関係者、民生委員、町内会長、ボランティア代表等と意見の交換をし、議事録を作成しスタッフが情報を共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設以来現在まで藤枝市介護福祉課様には大変お世話になっている。わからない事はすぐに聞きに行くようにしている。24年より介護さわやか相談員を受け入れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急・やむを得ない場合を除いて、身体介護は行っていません。日中、玄関の施錠はしていません。利用者の施設内の行き来は自由です。施設外へ出歩かれる場合も寄り添い安全面に配慮しながら自由に行動していただいています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、精神的な虐待がないよう留意し、日々の生活を観察し、身体的又は精神的な状況をチェックしていく。スタッフも暴言を利用者に言わないよう「言ってはいけない言葉」を紙に書き壁に貼っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会を通じて、職員全体が知識を共有できる取り組みをしている。現在、後見人制度を利用されているご利用者はB棟では1名おられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、又は解約時だけでなく、不安や疑問点について具体的な説明をしている。いつでも相談しやすい環境づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が何でも言える環境作り心がけている。が、直接話しづらい方のためには苦情・御意見箱を玄関に設置している。ご意見があれば全員で話し合いを行い改善策を見つける。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングや毎朝の交代時の申し送り、伝達ノート等から職員の意見や提案をくみとり、反映させている。幹部職員は一般職員の意見に耳を傾け、迅速に行動に移せるように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成27年度からキャリアパスを導入している。管理者は職員の性格や能力等の把握に努めている。休日の希望日は希望に添えるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修、認知症サポーター養成講座、グループホーム協会等の研修に参加している。毎月の内部研修もテーマを決めて行い、毎日の業務に反映できるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しだ介護サービス事業者協議会、県グループホーム協議会に加盟している。特にしだ介護ではネットワーク作りや研修があり参加している。研修等学べる機会には交代で出席している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ここは安心、安全、いごちの良い所であることを利用者が理解することが肝心である。何でも話せる環境作り、利用者、家族のニーズを理解し、コミュニケーションを大切に、信頼関係を築いていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安、不満を聞き、一緒に問題を解決していきます。ご利用者様・家人がともに笑顔で満足していただくように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、家族が第一に何に困っているのかを見つけ出し、(ニーズ)最適なサービスが受けられるよう支援する。不安なく、他の入居者の方々と打ち解けられるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とスタッフは日常生活を共にし、家族のような信頼関係を築くように努めている。食器拭き、洗濯物たたみ、等家事を一緒にしていただき、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者の様子を家族に連絡し本人の思いも家族に伝えることで利用者、家族、スタッフの絆を強めともに本人を支えていく事に努めている。近況を写真を添え、毎月個人のお便り(すきっぷだより)を出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症になっても慣れ親しんだ地域で暮らせるよう地域密着型施設としてグループホームが存在する。家族、親戚、友人、近所の方々がいつでも訪問しやすい施設作りに努力する。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者はお互い生まれも性別も環境も異なるがこの場所と一緒に暮らすためにお互いの性格を把握し、係わり合い、支えあえるよう支援していく。また孤立する方がでないよう見守りに努める。席の位置を工夫したり、お互いの会話にも気を配る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され他の施設に行かれた方でも面会、お見舞いにいたりホームに尋ねてきたりとの関係ができています。退所された方の御家族もその後の様子を知らせてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望にできる限り添えるよう努力している。(タクシーの予約、買い物、美容院や病院の利用、)		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族からの情報を元に生活歴の把握、趣味、好み、病歴、サービス等を把握する。リビングでの対話やレク等を通じ、より深い知識が得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中でその人らしい生き方、心身状態、能力の発見に努めている。自分でやれる事はやれるよう支援し、日々その人のペースで生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活や行動、言動に注意し、「何を求めているのか」の把握に努める。また家族は「何をのぞんでいるのか」と言う問いにいつも真剣に考え毎朝のミーティング等で話し合い、ケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録をつけ、職員は情報を共有している。毎朝ミーティング時に個別の介護プランについて意見交換し、介護計画の見直しに役立てている。特変があれば申し送りノートに記入し情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行、身体的介護が重くなり、パットやリハパン、その他日常生活に必要な品の購入、かかりつけ医の往診、説明等必要なニーズに合わせて柔軟にサービスを提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向に沿いながら、親戚、友人、知人、近所の方等やさわやか相談員、民生委員、ボランティアの受け入れをし、豊かな暮らしが可能となるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には、かかりつけ医の2週間に一度の往診、緊急時の往診、アドバイス、24時間いつでも医者、看護師と連絡の取れる体制が出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平成24年より看護師を配置している。提携先のドクター、看護師とは、利用者の情報を共有しており、適切な受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際してはかかりつけ医の紹介状用意、正確な情報提供を行う。病院のワーカー(相談員)と密に連絡を取り合い家族を交えて話し合いを行い、安心して入院治療ができるようバックアップしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行わない。かかりつけ医、家族、ホーム三者で協議し最終的にはかかりつけ医の判断を尊重したい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習修了者、medic, First, Aid受講者もあるが、全員に実践力を身につけるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を入居者も参加し、防火管理者が中心となり実施している(地震・火災)。消防車が1分程で来れる地理的環境にある。地域の防災訓練にも参加している。スプリンクラー設備あり。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの性格や生活歴を知り、人生の先輩であるということを常に念頭におき、尊敬の気持ちを忘れずに接することを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が遠慮なく自分の考えを言える雰囲気作りに努めている。対話やレク、施設内の役割を通じて、本人が積極的に行動や意見をおこせるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での日常生活の中で、本人の希望に添った暮らしができていないかを絶えず注意、観察しながら支援している。傾聴・対話を通じて、本人によりよいサービスが提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームには訪問理美容の方が来てくれます。衣類、装飾品、化粧品等も家族と連絡を取りながら支援している。毎朝どの洋服を着たいか本人に選んでいただいている。外出の目的に応じてお化粧品のお手伝いや服装の相談にもなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の好きな料理、苦手な料理を把握し(苦手な料理の時は代替の品を提供している)、楽しい食事になる様心がけている。食事の支度、片付けは出来る範囲で利用者も手伝っていただく。旬の食材を出来る限り取り入れた食事作りをしている。全員が食卓に着いてから「いただきます」をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前日等の体調の記録で一人一人の体調変化を把握している。介護記録、バイタルチェック表にて排尿、排便、食事量、水分補給等小まめに観察し健康維持を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、スタッフの声かけ、見守りの中で口腔ケアを実施している。自力では困難な方は介助にて行っている。必要に応じて歯科受診をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個々の排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行う。布パンツ使用を継続できるよう努めている。本人の自尊心に配慮した支援を行い、衛生的な毎日が送れるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックは毎日している。便秘による不穏や不安にならないよう食事献立を考え、水分補給や運動を促し、排便の生活リズムを作るようにして、便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に気遣いながら入浴を楽しめるよう支援している。時間、順番に関してはできるだけ希望に添えるようにしている。外出し疲れが見えるような時は清拭に変え対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の個々の状態や生活習慣により昼寝を勧めたり、ソファや畳部屋でも休息できるよう声かけをしている。夜間安眠できるような環境(騒音防止、照明、室温)に配慮している。不眠の訴えには傾聴し、精神的安定を図るよう努めている(例 温かい飲み物を提供)定期的に寝具を干したり洗濯をし気持ち良い眠りを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導の下、処方された薬の目的、副作用、用法、用量は細かく調べファイルを作り、各スタッフが共有している。服薬については、毎食後、服薬シートを作成して、誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の状態を把握しその方の生活歴や趣味、嗜好を考慮しながら支援している。調理、掃除、洗濯物たたみ、園芸、買い物等毎日の生活の中での楽しみや興味あることの発見により、より良いケアが出来るよう努めている。誕生日、季節の行事を大事にしそれに伴う食事を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候等にもよるが、可能なかぎり屋外での散歩を楽しめるようにしている。職員の時間帯により、買い物やドライブにお誘いしている。また、中庭での野菜の栽培を通じて季節感を感じ、収穫の喜びを体感していただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の個々の状態により判断しているが、原則お金はホームで管理している。(自分で所持していて、盗まれたらという他の入居者とトラブルになることを避けるため)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望あれば電話ができるよう随時対応している。また、手紙を書く習慣のある方は、対話を通じて積極的にペンをすすむよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設らしさは極力排除して普通の家庭のような雰囲気作りに心がけている。スタッフや利用者手作りの作品(タペストリー等)を飾ったり季節の花々や節句の飾り物等々、四季折々居心地の良い空間作りを心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングにテレビ、ソファ、イス、玄関、ウッドデッキの中庭等にもベンチが置いてあり、プランターに花や野菜の栽培もある。利用者が好きな場所で思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自分の使い慣れた物、好みの物を持ってきていただいている。入所中に必要な物は買い物に同行して買い揃えたり、本人の好みを尊重している。A,B棟自由に出入りできるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーになっており、手摺り、段差なし、車椅子使用トイレ、スプリンクラー設備と安全に配慮した作りとなっている。又個々のレベル状態を把握しながら自立した生活が送れるよう支援している。		